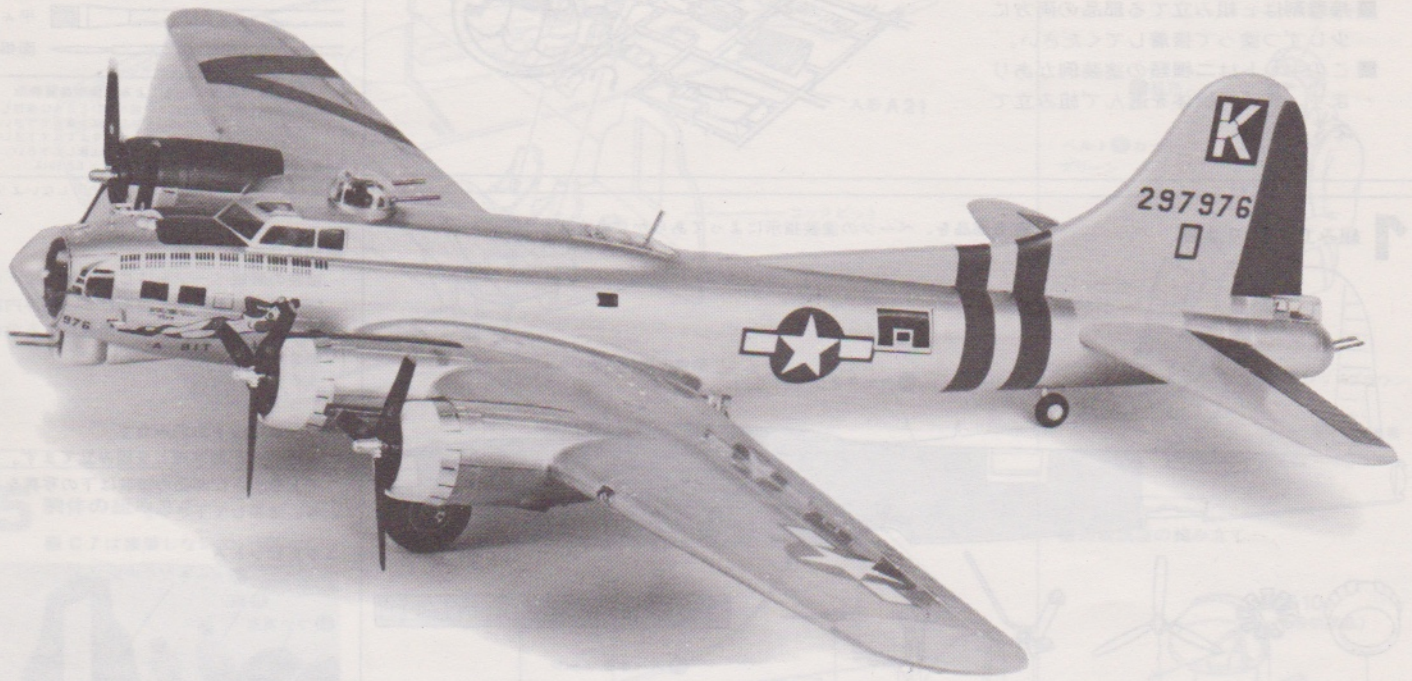


BOEING B-17G FLYING FORTRESS

Hasegawa
ハセガワ

1/72スケール ボーイングB-17G フライイング・フォートレス



〈ボーイングB-17Gフライイング・フォートレス爆撃機について〉

B-17爆撃機シリーズは、ボーイング299、XB-17、YB-17、YB-17Aの試作機を経て、B-17Bから生産が始まり、B-17CおよびB-17Dが援英爆撃機として欧州に渡ってから初めて戦争に参加した。太平洋戦争が始まったときには、すでに背鰭(ひれ)をつけ、尾翼面積を増加したB-17Eが完成しており、これから発達したB-17Fから、他社も協力して本格的な大量生産に入った。

B-17Fは、おもに欧州戦線に投入され、対ドイツ戦略爆撃の主力となったほか、B-17E/Fは北アフリカ、インド、ビルマおよびニューギニアの各戦線でも活躍、B-24D/Eリベレーターとともにアメリカ航空工業の最重要生産機種となった。

B-17Fは、とくに対ドイツ作戦の主力となったため、空中戦による犠牲も多く、その対策が急がれた。B-17Fを改造したYB-40多座戦闘機は、機首の下にアゴ旋回銃塔をつけたエスコート・ファイターであるが、その頃、航続性能の良いP-47サンダーボルトやP-51ムスタングなどの戦闘機が現われ、護衛任務についたため、過荷重低速で効果の少ないB-40の生産は中止となった。

しかしその特色あるアゴ銃塔は、空中戦での威力が認められて、次のB-17Gの機首武装として実用化され、これがB-17Gの大きな特徴となった。このアゴ銃塔をつけたB-17Gは、1943年9月に登場、アメリカ陸軍の新しい戦略爆撃機として大量生産に入ることになった。

しかし、武装の強化と防弾装置の完全化を図ったため、全備重量はB-17Fよりもさらに増加し、そのため速度と上昇力は一段と低下して、最大速度は462km/時となり、ドイツ戦闘機との空中戦では、いぜんとして苦戦が伝えられた。

B-17Gは、ボーイング社シアトル工場が4,035機、ダグラス社ロングビーチ工場が2,395機、ロッキード・ベガ社パーバンク工場が2,250機、合計8,680機の大量生産が行なわれた。結局、B-17各型の合計生産高は12,677機(一説に12,726機)となったが、その約7割近くがB-17Gであった。

欧州戦線では、B-29の戦列化が間に合わなかったため、B-17GとB-24H/Jが最後まで活躍したが、戦後の多くの戦争映画でも見られるように、B-17Gを主力とした部隊は、ドイツに対する戦略爆撃で名高いアメリカ陸軍第8空軍および第12空軍(のちに第15空軍)である。

B-17Gの最初の実戦参加は、1943年暮から始まり、1944年3月から大編隊でベルリン空襲を行ない、さらに5月からは爆撃目標をおもに石油基地に変えた。やがてドイツ空軍戦闘機の行動は、燃料不足のために次第に制限され、反対に連合軍爆撃機の編隊行動が有利になって、戦局は刻々と変化した。

1944年6月には、連合軍のノルマンディー上陸作戦が敢行されたが、このときB-17Gはドイツ空軍基地を爆撃して、M4 シャーマン戦車を主力とする連合軍機甲部隊の上陸を成功させた。その後もベルリン進撃作戦を有利にするため、おもにドイツ軍の航空基地と燃料基地を爆撃し、B-17Gは連合軍最高の歴戦戦闘機と賞讃された。

1944年夏頃には、B-17G、B-24H/Jを主力とする連合部隊は、1回の出動に約1,500機が参加するまでに増強され、その後、ドイツ本国上空の制空圏は、ほとんど連合軍のものとなった。

なお、B-17の中隊編成機数は、F型までは通常8機であったが、G型からは18機に倍増され、また1943年12月以後に完成した機体には、迷彩塗装を中止し、無塗装のジュラルミン生地仕上げとなった。ただし、操縦席風防前方と、エンジン・カウリングの内側は、太陽光線の反射をふせぐためダーク・オリブドラブで塗ってある。

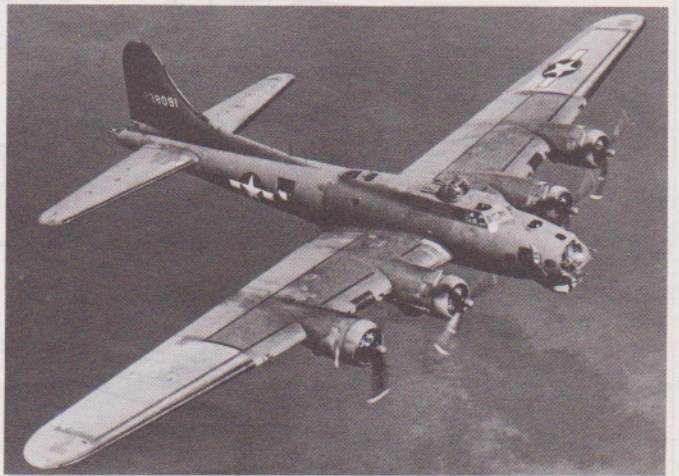
なお、イギリス空軍で使われた少数のB-17Gは、フォートレスIIIと名付けられ、沿岸パトロール、敵レーダーの電波防害、味方機の誘導などに使われた。また、B-17Gから発達した他機種には、F-9C写真偵察機(のちにRB-17Gと改称)、B-17H救難機(胴体下に落下傘つき救命ボートを装備、のちにSB-17Gと改称)、CB-17GおよびVB-17G輸送機、TB-17G練習機、QB-17L/P無線操縦機の機、海軍のPB-17Wレーダー警戒機などがあつた。

B-17Gのデータは、乗員9名、ライトR-1820-97サイクロン空冷式星型9気筒1,200馬力4基、全幅31.62m、全長22.66m、主翼面積131.9㎡、全備重量24,948kg、最大全備重量29,711kg、最大速度462km/時(高度7,620m)、巡航速度293km/時、着陸速度145km/時、上昇時間 高度6,100mまで37分、実用上昇限度10,850m、航続距離3,220km(爆弾2,720kg)~5,470km(爆弾なし)、

最大爆弾搭載量4,900kg、12.7mm機関銃13機(機首左右各1、アゴ銃塔2、上部銃塔2、背部1、腹部銃塔2、両側方各1、尾部銃塔2)。(解説:野沢正)

〈B-17の設計にあたって〉

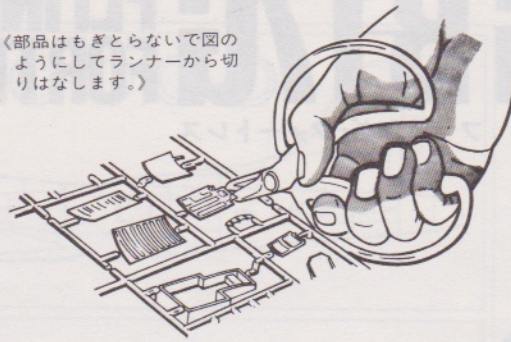
写真を見ながら、ふとこの飛行機は鳥ではなくトンボだなあと思いました。夏の空に舞う赤トンボではなく鬼ヤンマと呼ばれる大型のトンボです。体が大きく、すごく重そうに感じられますが、けっこう早くすいすいと飛び回っている姿を思い出しました。そしてその飛び方がこの飛行機と同じだなと感じられたのです。あなたはどんなイメージを持っていましたか。さてそんな事を思いながら設計に入ったのですが、設計に入る前の資料及び部品分割等整理しなければならぬ事が多く早くもアップ、アップの低空飛行の連続です。高度0.1m、シンドイです。問題その1、それは透明部品が多いということです。この簡単なことが大きな問題となって最後まで尾を引く事になってしまいました。組みやすさを目的の一つとしてある以上、部品点数の増加は一要因となります。この為見えなくなる内部の表現は最少限度必要な部分のみとなってしまいました。問題その2、プロペラを着着する方法に付いてでした。この飛行機のプロペラの形状はサンダーボルトのプロペラに似ています。スピナーがない為はめ合せの方法がかぎられてしまいます。ここに新しい方法を取り入れる様に努力したのですが、時間切れのために従来通りの方法になってしまいました。残念です。問題その3、各動力銃座を可動とするかしないか。これはすべて部品分割線上に位置するためにおこる問題でした。組み込む時の方法がないので一部のみ可動とし、残りは接着又はハメ込みの状態にする様にしました。すべて大型機は説明できないような問題が一ヶ所は出てくる様です。こんな調子で作業を進めて行き、脚支柱、排気タービン等よりよい方法と思われる方法を取入れながらの悪戦苦闘の結果私たちの作業、飛行はどうかやら墜落せずに無事超低空飛行を終えたようです。この一見、鬼ヤンマの様な大きな図体をした飛行機のどこに重点を置くか、非常に苦勞しましたが必然的にトンボの目玉にあたる部分に努力が集中されたような結果となってしまいました。後部にも手を抜かず前部と同じ様努力したつもりではありますが、どうにもしようがないと言った感じでした。それでもこの飛行機の持っている特色を生かしたつもりですがどの様に感じていただけましたか。どうかやら尻切れトンボになってしまいましたが、あなたの高度な感覚を生かしてカラフルな色彩を駆使したあなただけの機体に作り上げて下さい。



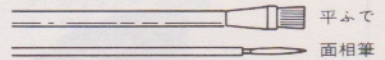
〈くみだてるまえに〉

- 説明書を一度全部読んでから、指示に従って製作してください。
- 部品をランナーから切りはなす時はニッパー又はカッターを使ってください。
- 接着剤は、組み立てる部品の両方に少しずつ塗って接着してください。
- このキットは二種類の塗装例があります。好みの機体を選んで組み立ててください。

〈部品はもぎとらないで図のようにしてランナーから切りはなします。〉



①～②の番号はモデルカラーの番号です。くみだてたらかならず色をぬってすばらしいモデルを作りましょう。小さな部品は組み立てる前に塗装しておきましょう。

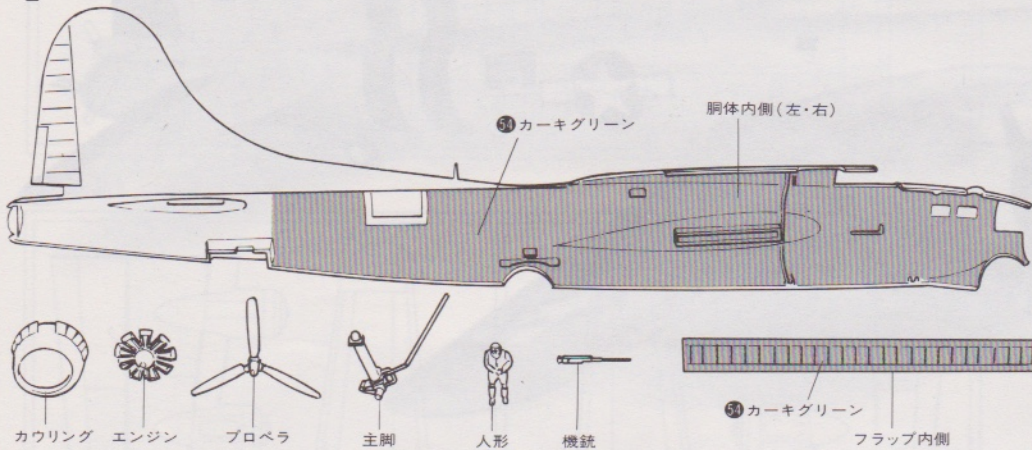


家庭用品品質表示法による接着剤品質表示
 取扱い上の注意 1. 幼児の手の届かないところに保存し、いたづらをしない様注意して下さい。
 2. 火気に注意し換気をよくして下さい。
 3. 故意に吸わない様注意して下さい。
 表示者 SZ 3000 SZ 3006 SZ 5013

部品を取り出した空袋は幼児が被ったりしないように破り捨てして下さい。

1 組み立て前の塗装

■ 各部品を、ページの塗装指示によってあらかじめ塗装して下さい。



■ 組み立て前の塗装

塗装の解説ページをはじめに読んで下さい。好みの塗装例を選んだら、機体内部等、必要な部品の塗装を組み立てる前にすまして下さい。

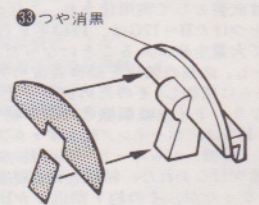
■ コックピットの組み立て

操縦席と、照準席とを組み立てます。シート等小さな部品の塗装は下の写真を参考に塗装して下さい。

コックピット A

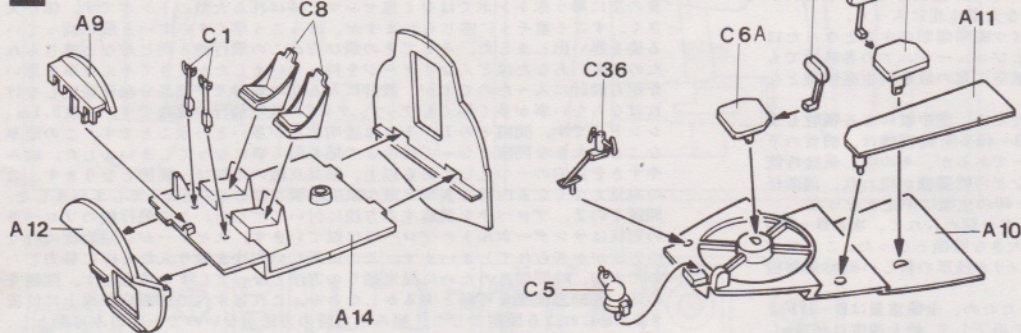


■ デカールをはります。

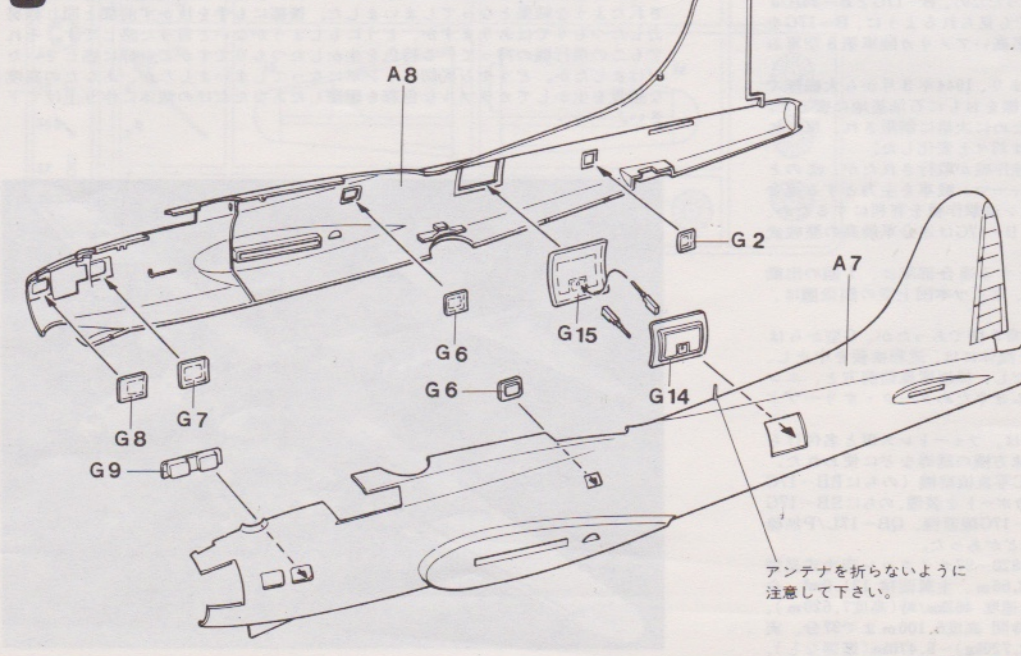


● デカールは台紙ごとのもりではって下さい。

2 コックピットの組み立て



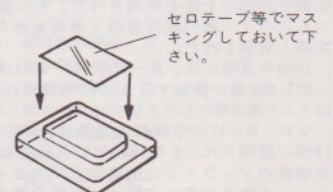
3 窓ガラスの取り付け



アンテナを折らないように注意して下さい。

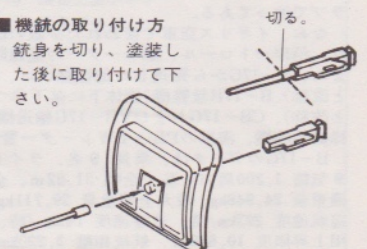
■ 窓ガラスの取り付け

胴体内側はあらかじめ機体内部色で塗り、窓ガラスを接着します。外側に出る部分はセロテープ等でマスキングをしておくで機体の塗装に便利です。

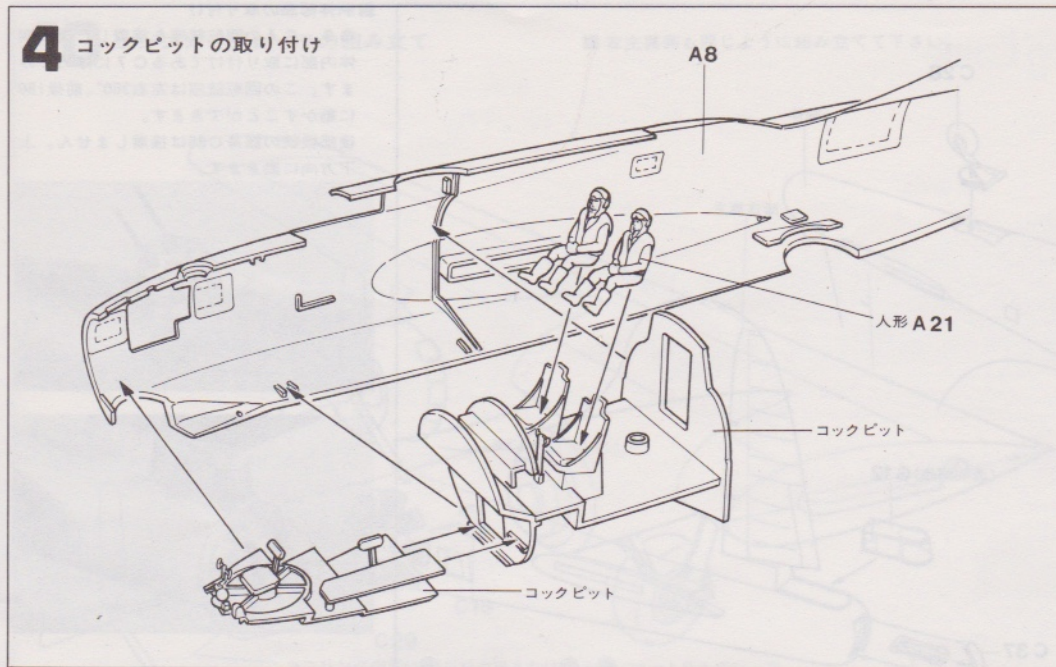


■ 機銃の取り付け方

銃身を切り、塗装した後に取り付けして下さい。



4 コックピットの取り付け



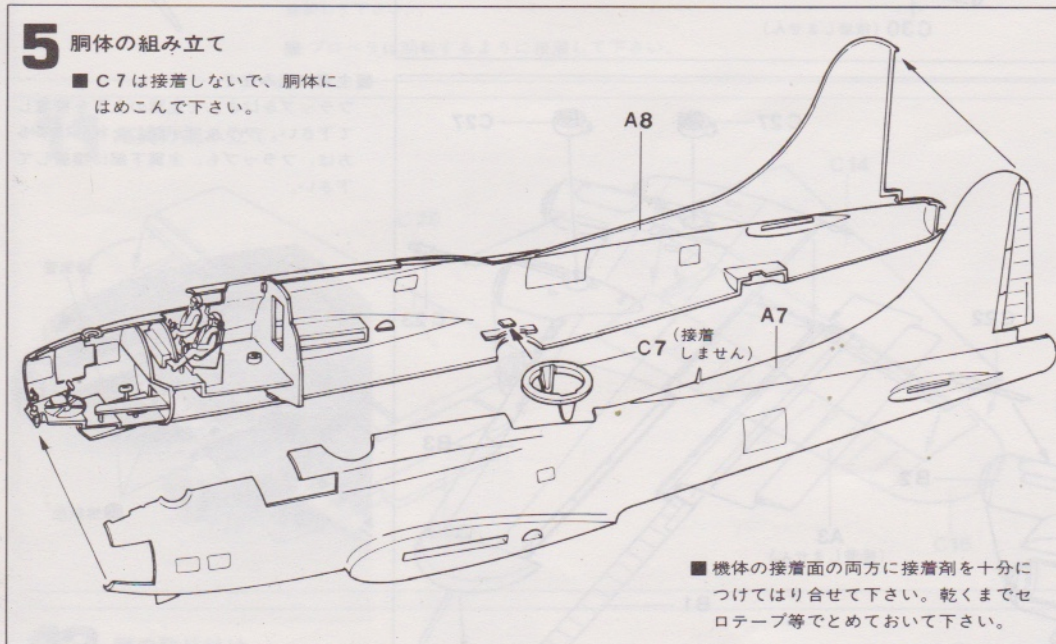
■コックピットの取り付け
操縦席と照準席を接着しながら機体に取り付けます。あらかじめ塗装してある人形もせて下さい。

■人形の塗装



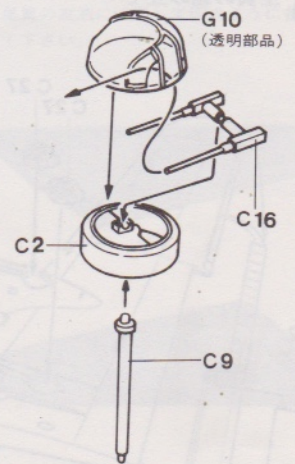
5 胴体の組み立て

■ C7 は接着しないで、胴体にはめこんで下さい。



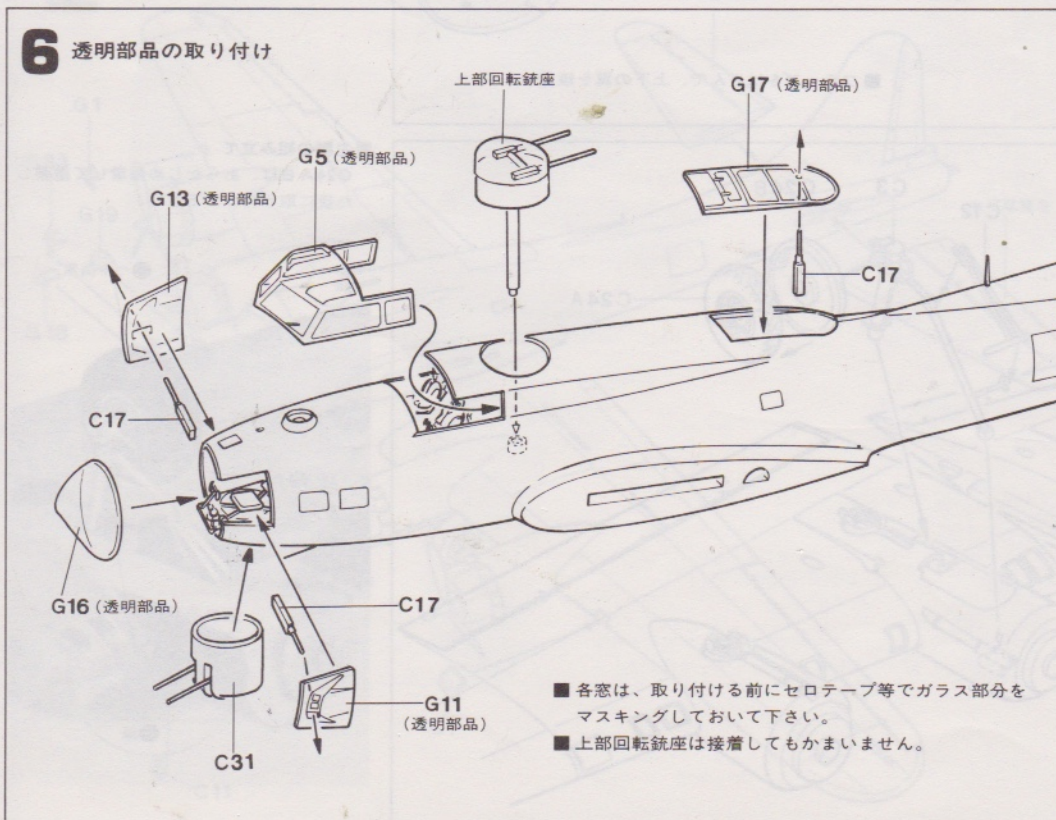
■機体の接着面の両方に接着剤を十分につけてはり合せて下さい。乾くまでセロテープ等でとめておいて下さい。

■回転銃座の組み立て



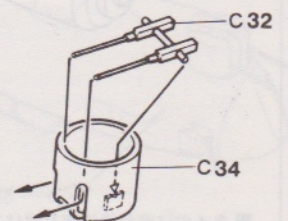
■透明部品の取り付け

6 透明部品の取り付け

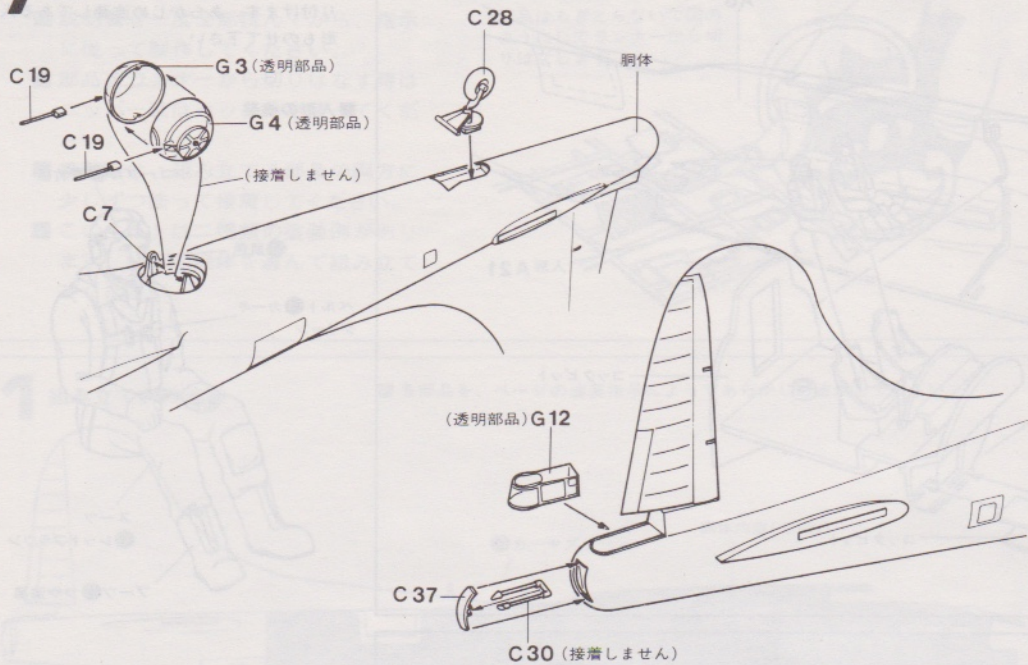


■各窓は、取り付ける前にセロテープ等でガラス部分をマスキングしておいて下さい。
■上部回転銃座は接着してもかまいません。

■前部回転銃座の組み立て

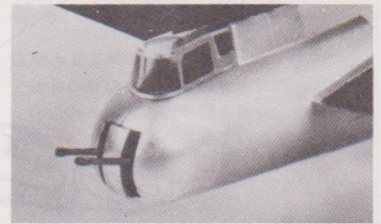
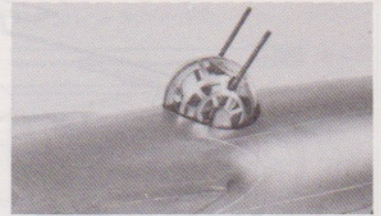


7 胴体部品の取り付け

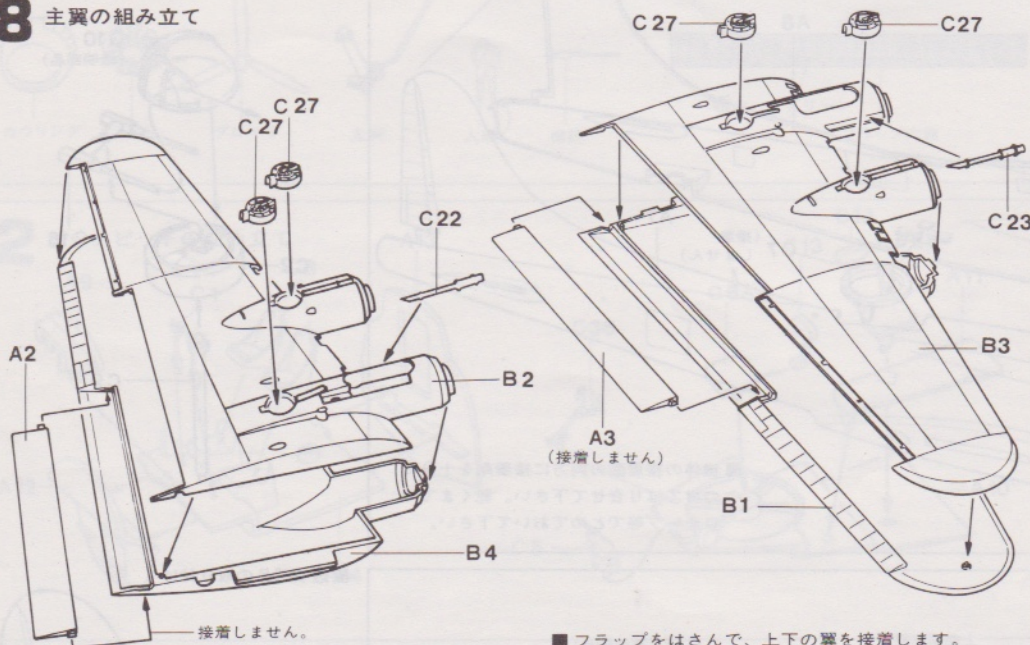


■胴体部品の取り付け

G 3、G 4の回転銃座を接着した後に胴体内部に取り付けてあるC 7にはめこみます。この回転銃座は左右360°、前後180°に動かすことができます。後部機銃の銃身C36は接着しません。上下方向に動きます。

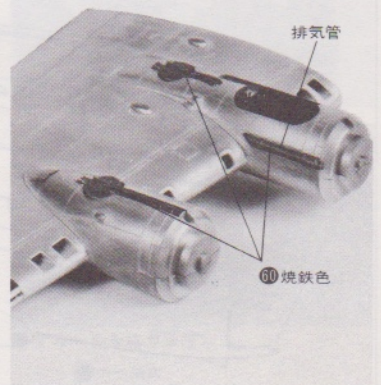


8 主翼の組み立て

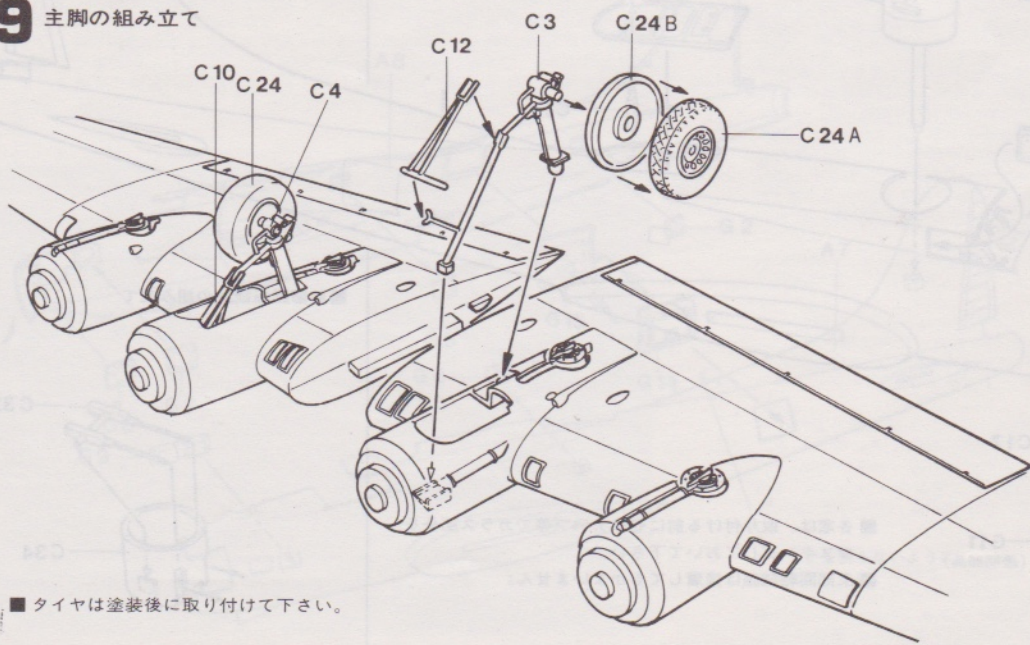


■主翼の組み立て

フラップをはさんで主翼の上下を接着して下さい。フラップが閉じた状態にする方は、フラップも、主翼下部に接着して下さい。

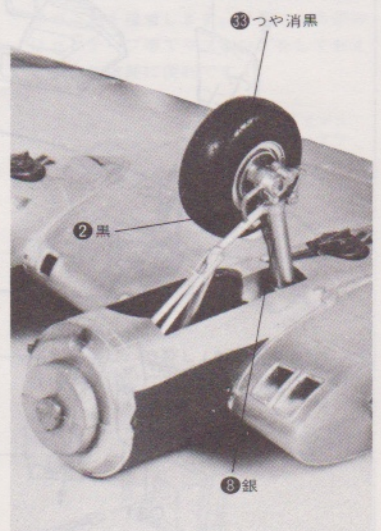


9 主脚の組み立て



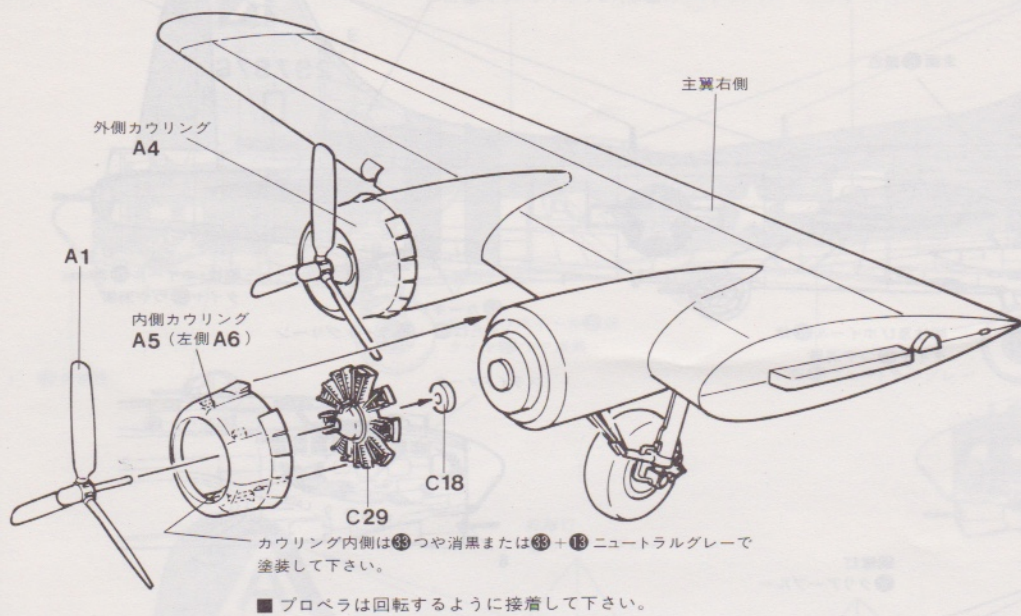
■主脚の組み立て

C24 A Bは、あらかじめ接着して塗装した後に取り付けて下さい。



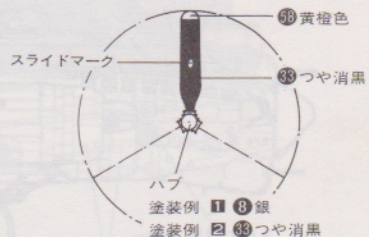
10 エンジン・プロペラの組み立て

■ 左主翼側も同じように組み立てて下さい。



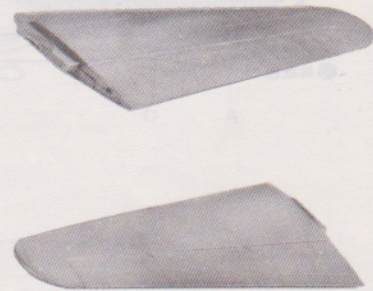
■ エンジン・プロペラの組み立て
プロペラ・カウリング・エンジンは、あらかじめ塗装した後に組み立てて下さい。カウリングは翼の外側用と内側用がありますから、注意して下さい。左翼も同じように組み立てて下さい。

■ プロペラ・エンジンの塗装

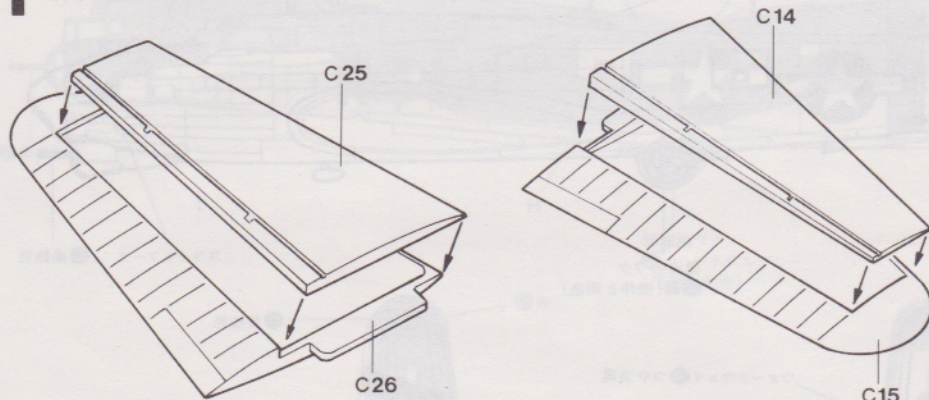


■ 尾翼の組み立て

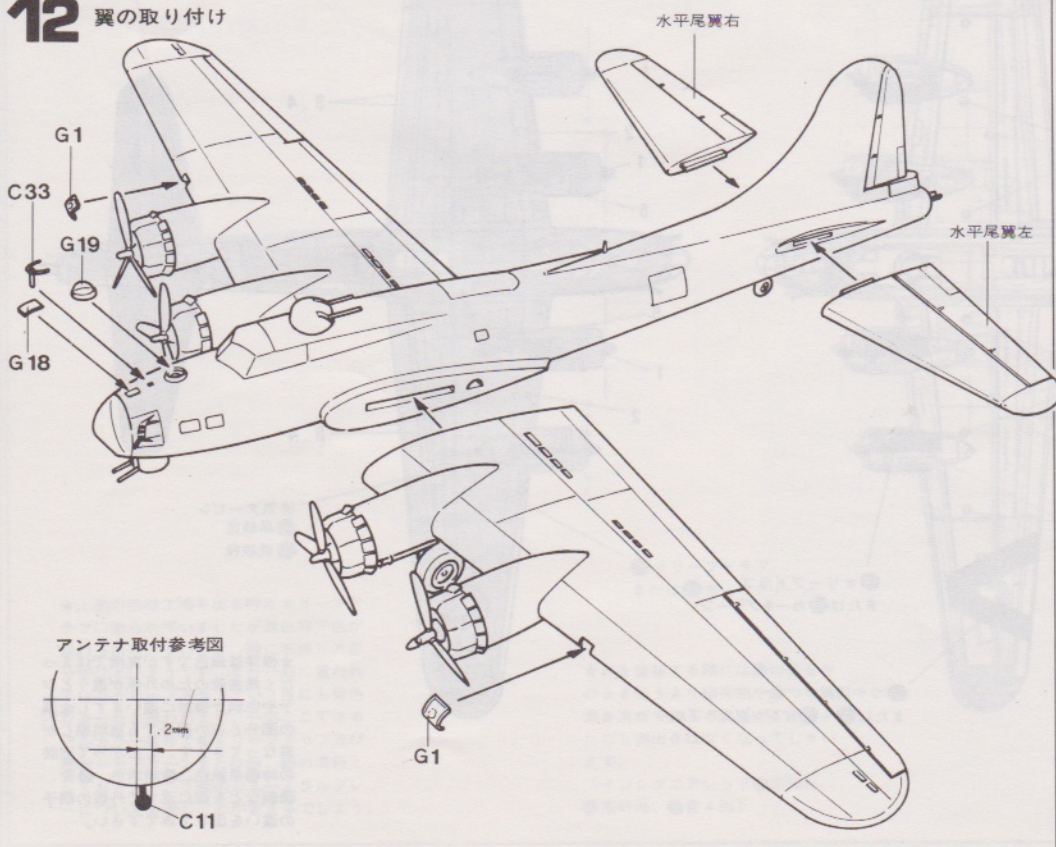
尾翼の左右に注意して図のように接着して下さい。



11 尾翼の組み立て

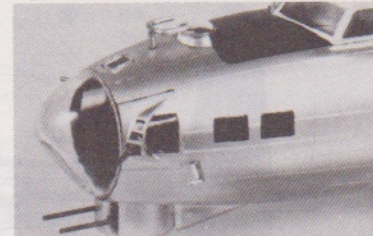


12 翼の取り付け

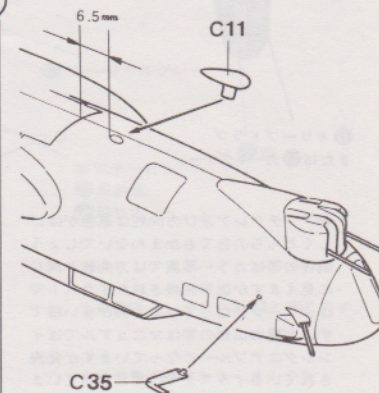


■ 翼の取り付け

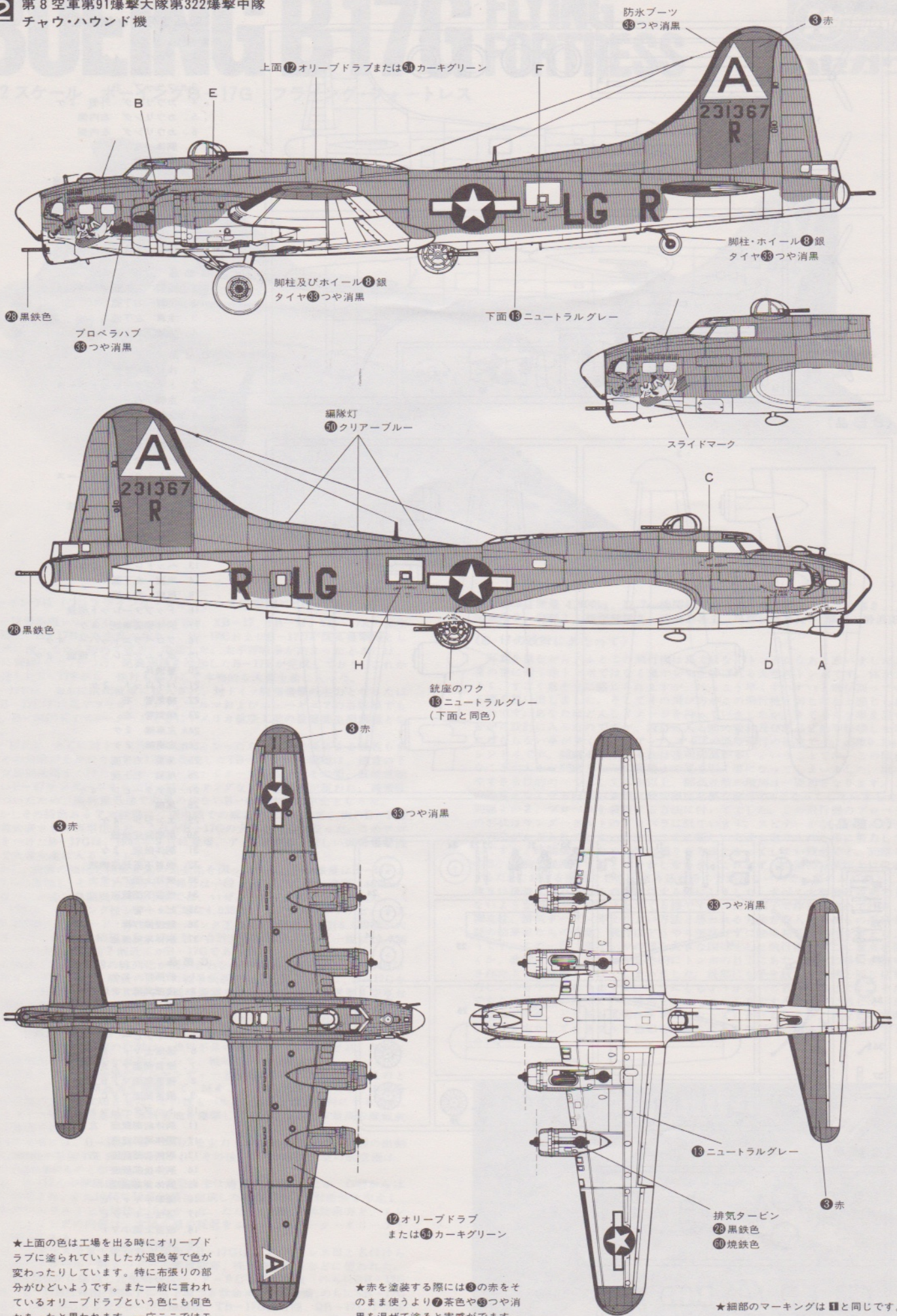
完成した胴体に翼を取り付けて下さい。アンテナや小さな透明部品は機体の塗装後に取り付けるとよいでしょう。



■ 部品の取り付け



2 第8空軍第91爆撃大隊第322爆撃中隊
チャウ・ハウンド機



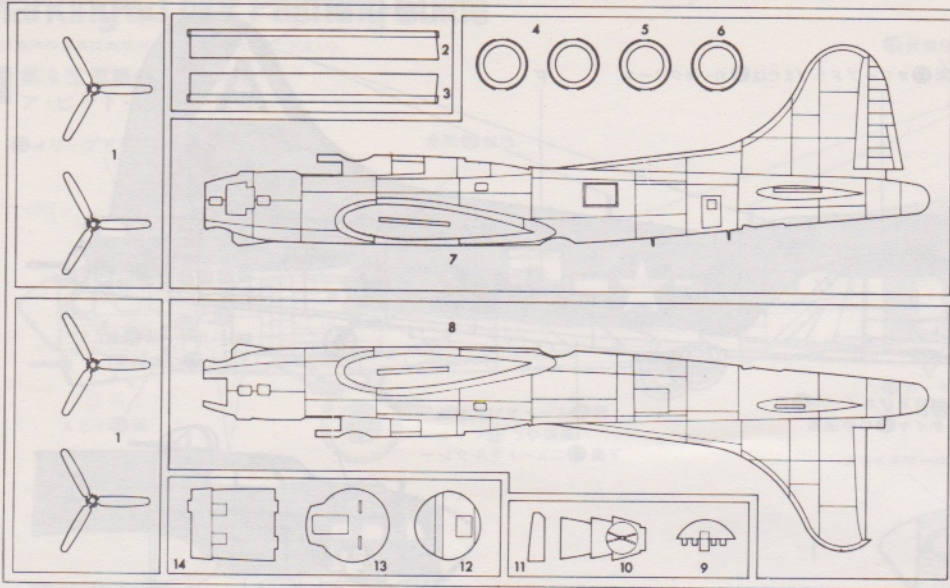
★上面の色は工場を出る時にオリーブドラブに塗られていましたが退色等で色が変わったりしています。特に布張りの部分がひどいです。また一般に言われているオリーブドラブという色にも何色かあったと思われます。一応ここではモデルカラー番号で⑫オリーブドラブ及び⑬カーキグリーンまたは⑭、⑮の混色としておきます。下面のニュートラルグレイについても同じことが言えるでしょう。

★赤を塗装する際には③の赤をそのまま使うより⑦茶色や⑧つや消黒を混ぜて塗ると実感ができます。ただし派司はなくなってしまいました。
〔インシグニアルレッド③赤55%、⑦茶41%、⑧青4%〕

★細部のマーキングは⑪と同じです。

★色の見本にはカラーガイドを参考にして下さい。

〈A 部品〉



〈部品番号及び部品名〉

A 部品

1. プロペラ 4ヶ
2. フラップ 左
3. フラップ 右
4. カウリング 外側 2ヶ
5. カウリング 右内側
6. カウリング 左内側
7. 胴体 左
8. 胴体 右
9. 計器板
10. 爆撃手席床板
11. 航法士机
12. バルクヘッド A
13. バルクヘッド B
14. 操縦士席床板

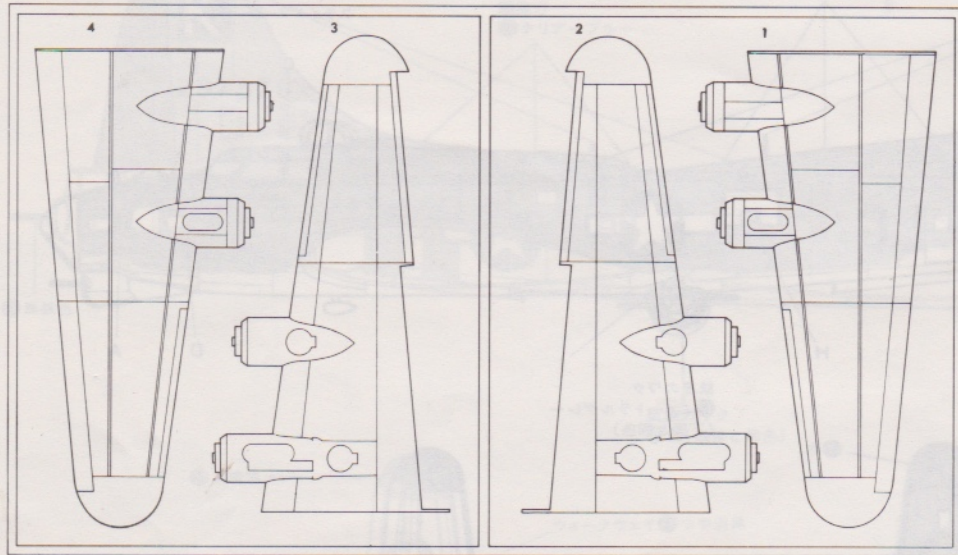
B 部品

1. 主翼 左上面
2. 主翼 右下面
3. 主翼 左下面
4. 主翼 右上面

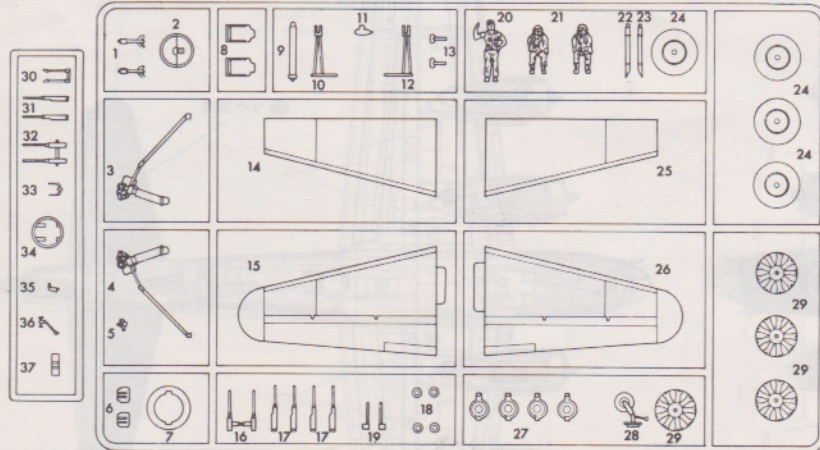
C 部品

1. 操縦桿 2ヶ
2. トップターレットベース
3. 主脚 右
4. 主脚 左
5. 爆弾照準器
- 6A 爆撃手席
- 6B 航法士席
7. ボトムターレットベース
8. 操縦士席 2ヶ
9. トップターレット支柱
10. 主脚支柱
11. 下部アンテナ
12. 主脚支柱
13. ヘッドレスト 2ヶ
14. 尾翼 左下面
15. 尾翼 左上面
16. トップターレット機銃
17. 胴体側面機銃 4ヶ
18. プロペラストッパー 4ヶ
19. ボトムターレット機銃 2ヶ
20. 整備兵
21. パイロット 2ヶ
22. 排気管 右
23. 排気管 左
- 24A 主車輪 2ヶ
- 24B 主車輪 2ヶ
25. 尾翼 右下面
26. 尾翼 右上面
27. 排気タービン 4ヶ
28. 尾輪
29. エンジン 4ヶ
30. 尾部銃座機銃
31. 胴体機銃 2ヶ
32. 機首下面銃座機銃
33. 機首上面アンテナ
34. 機首下面銃座
35. ビト一管
36. 銃座操作桿
37. 胴体尾部部品

〈B 部品〉



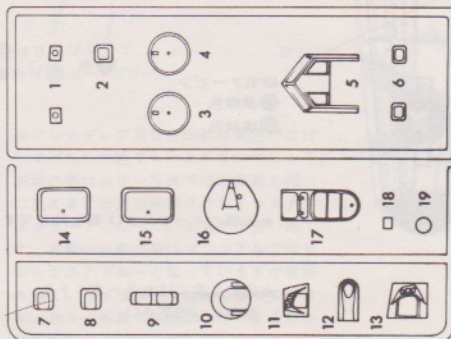
〈C 部品〉



G 部品

1. 前照灯 2ヶ
2. 後部昇降ドア用マド
3. ボトムターレット
4. ボトムターレット
5. キャンビー
6. 通信士マド 2ヶ
7. 機首側面マド A
8. 機首側面マド B
9. 機首側面マド C
10. トップターレット
11. 胴体前部銃座 左
12. 胴体後部銃座
13. 胴体前部銃座 右
14. 胴体後部銃座
15. 胴体後部銃座
16. 爆撃手キャンビー
17. 通信士キャンビー
18. 機首上面小マド
19. 天測ドーム

〈G 部品〉

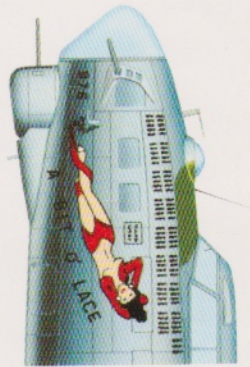


B-17G FLYING FORTRESS



1/72スケール ボーイングB-17G コライイング・フォートレス
 〈ハセガワ カラーガイド〉

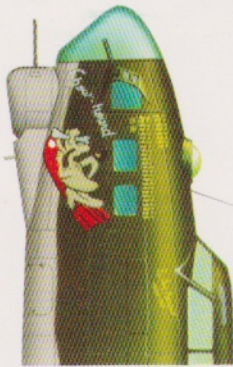
1 第8空軍、第3航空師団、第4戦闘連隊
 第447爆撃大隊、ア・ビット・オ・レース
 1945年 イギリス



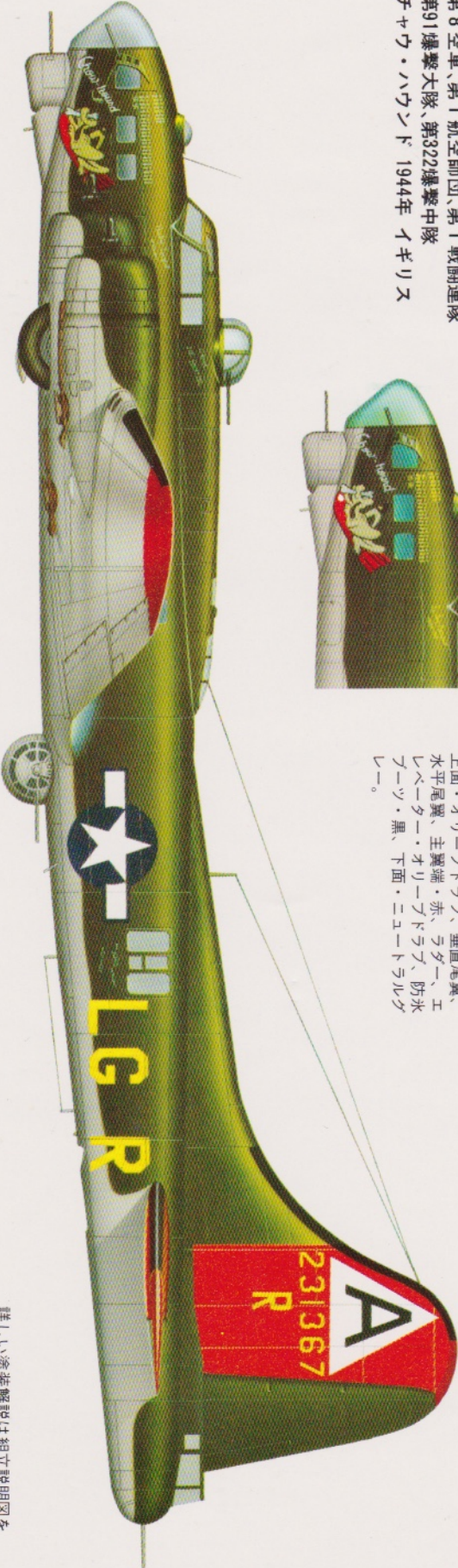
全面・銀色、垂直尾翼及び主翼端・黄色、ラター・胴体の帯・オリエンテドラフ、カウリング・白、アンテナグレア・オリエンテドラフ。



2 第8空軍、第1航空師団、第1戦闘連隊
 第91爆撃大隊、第322爆撃中隊
 チヤウ・ハウン・ト 1944年 イギリス



上面・オリエンテドラフ、垂直尾翼、水平尾翼、主翼端・赤、ラター、エレベーター・オリエンテドラフ、防氷レーズ、黒、下面・ニュートラルグレー。



詳しい塗装解説は組立説明図をごらん下さい。